

トピックス

インフルエンザ様疾患の集団発生とウイルスの検出状況

(平成 15 年 2 月 12 日現在)

今冬の愛知県（名古屋市等も含める）でのインフルエンザ様疾患の集団発生は、学級閉鎖等の防疫措置を受けた施設数 131 施設（前年同期 451 施設）、患者数は 3,951 名（前年同期 19,352 名）、欠席者数 2,223 名（前年同期 10,315 名）と集団発生に関連した患者数などについて、前年の 1/5 程度となっておりますが、感染症発生動向調査における定点医療機関からの 1 月分の患者報告数では前年の 3.7 倍程度（34,902 / 9,545 名）に増加しています。



また、全国では、平成 14 年 11 月 10 日～平成 15 年 2 月 1 日の期間に学級閉鎖等の防疫措置を受けた施設数 6,512 施設（前年同期 1,112 施設）、患者数 256,938 名（前年同期 34,569 名）、欠席者数 135,867 名（前年同期 17,908 名）と集団発生に関連した患者数などについて、前年の 7 倍程度に増加しています。

インフルエンザウイルスの愛知県（名古屋市を除く）における検出状況は、県衛生研究所に搬入された感染症発生動向調査における定点医療機関からの 111 検体から A 香港型インフルエンザウイルス 84 株、B 型インフルエンザウイルス 3 株が検出されています。集団発生については、豊橋、豊田両中核市を含む県内全域の 7 施設から 67 検体が搬入され、A 香港型インフルエンザウイルス 27 株が検出されています。抗原性は A 香港型、及び B 型共にすべて今冬（2002/2003 シーズン）のワクチン株と類似しており、B 型は昨冬（2001/2002 シーズン）大きな流行を起こしたビクトリア系統でした。

以上のインフルエンザウイルス分離状況から今シーズンの流行は、インフルエンザ脳症を頻度が高いと報告されている A 香港型が主流を占めていましたが、B 型が分離されたことにより A 香港型と B 型の混合流行となることも予想されるため今しばらく注意が必要です。また、公表されている最新のデータである平成 15 年 2 月 7 日現在の資料では、全国で A 香港型 2,003 株、B 型 243 株が検出されていますが、A ソ連型の報告はまだありません。

なお、A 香港型が流行の主流を占めたことによりインフルエンザ脳炎・脳症の発生が懸念されています。厚生労働省インフルエンザ脳炎・脳症研究班（研究代表者・森島恒雄名古屋大学教授）ではインフルエンザ脳炎・脳症の事例に関する情報を収集しています。医療機関におかれましては該当症例がある場合、もよりの保健所への情報提供をお願いします。

インフルエンザウイルス検出状況

発生動向調査	H14.11	12	H15.1	2	合計
検体数	4	40	65	2	111
A香港型	1株	30株	52株	1株	84株
B型			3株		3株

集団発生	H15.1	合計
検体数	67	67
A香港型	27株	27株

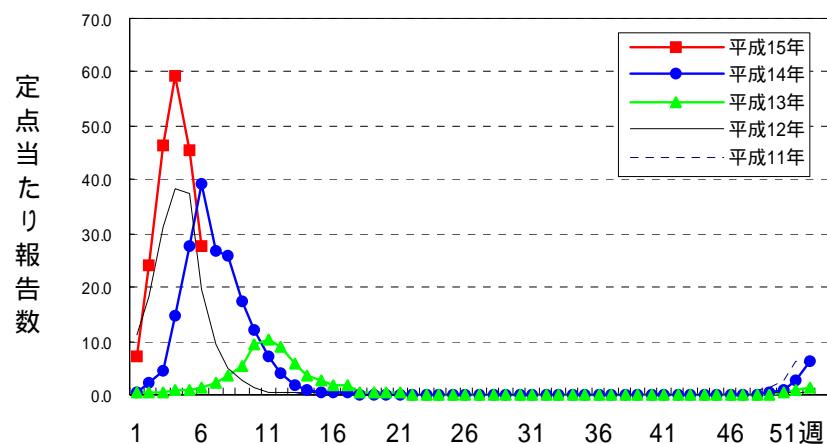
流行状況

インフルエンザ

定点当たりの報告数は 27.7 (前週 45.3) と第 4 週のピークを過ぎ減少していますが、依然報告数が多く注意が必要です。

インフルエンザの予防には手洗いやうがい、十分な栄養と休養が大切です。また、早期にインフルエンザウイルス薬を使用することによって多くの場合治療可能ですので、もし、インフルエンザを発病したことが疑われる場合（具体的には突然の上気道炎症状、38 を越える高熱、全身倦怠感等の全身症状等）には、すぐに医療機関を受診されることをお勧めします。

インフルエンザ



感染症についての説明及びグラフ総覧については、
愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

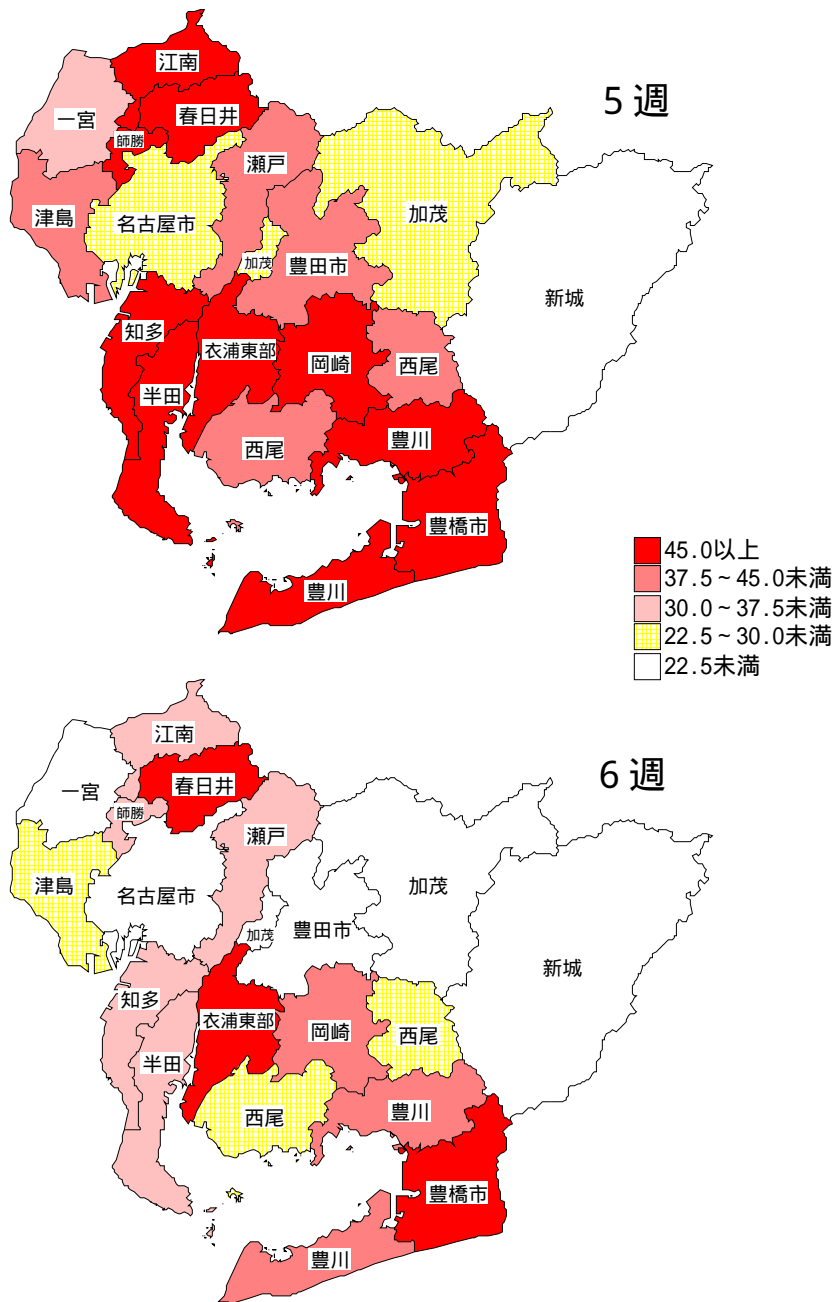
厚生労働省インフルエンザ対策キャンペーンホームページ

インフルエンザQ & A、キャンペーンポスターなどがダウンロードできます。

<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp/>



インフルエンザの保健所別報告数の推移（名古屋市含む）



	5週	定点 当たり	6週	定点 当たり		5週	定点 当たり	6週	定点 当たり
名古屋市	1796	25.66	1118	15.97	岡崎	756	68.73	459	41.73
瀬戸	381	42.33	282	31.33	衣浦東部	1131	102.82	588	53.45
津島	264	37.71	171	24.43	西尾	224	44.80	138	27.60
師勝	210	52.50	140	35.00	豊田市	358	44.75	157	19.63
一宮	581	36.31	340	21.25	加茂	70	23.33	43	14.33
春日井	725	80.56	468	52.00	豊橋市	538	67.25	367	45.88
江南	272	45.33	188	31.33	豊川	551	61.22	361	40.11
半田	288	48.00	183	30.50	新城	27	13.50	27	13.50
知多	487	69.57	258	36.86					

■は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるインフルエンザの流行発生警報の開始基準値は定点当たり 30 人、継続基準値は 10 人です。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

病原性大腸菌 O1 6歳女、9歳男、66歳女

病原性大腸菌 O25 6歳男、12歳女

病原性大腸菌 O20 1歳女

病原性大腸菌 O166 32歳女

病原性大腸菌 O148 3歳男

感染性胃腸炎の方が多くなってきました。

インフルエンザまだ流行中です。

【尾西市 城後小児科】

インフルエンザ全て A 型

【一宮市 後藤小児科医院】

インフルエンザ 24人と減少 全て A 型 ワクチン歴のある人 9人

感染性腸炎が増えてきました。

【一宮市 あさのこどもクリニック】

4歳女 B型インフルエンザ

【一宮市 平谷小児科】

インフルエンザ全て A 型

【一宮市 医療法人かすがい内科】

犬山の方はまだ A 型がほとんどですが、H3N2(香港型)の抗体価の上昇が高いものが見られます。

【犬山市 武内医院】

インフルエンザ 減少してきています。

嘔吐を伴う感染性胃腸炎 増加していますが、比較的軽症で経過する症例が多いです。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

インフルエンザ 65例 A 63例 B 2例 うちワクチン接種者 19例

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

5ヵ月女、11ヵ月男 ロタウイルス(+)

インフルエンザはやや減少の傾向となりました。

【春日町 丹羽医院】

4歳 マイコプラズマ肺炎

【師勝町 田中クリニック】

尾張東部地区

感染性胃腸炎が少し増えはじめました。

1歳8ヵ月男 病原大腸菌O18

インフルエンザはすべてA型 14%は予防接種済

マイコプラズマ肺炎もみられ、A型インフルエンザとの合併した肺炎もあります(4歳男、6歳女)。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザ先週より増加 すべてA型でした。

溶連菌感染症、水痘、流行性耳下腺炎も少し目立ちました。

その他マイコプラズマ感染症、アデノウイルス感染症みられます。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

A型インフルエンザまだまだ多数あります。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

今週もインフルエンザAが多くみられました。

予防接種を受けていても1~2日発熱する人が多くみられました。

他には水痘2名(1歳女、2歳男)

8歳女の単純ヘルペス症がありました。

【春日井市 かがわ北病院】

インフルエンザは全例A型です。

【春日井市 竹内医院】

ロタ*胃腸炎あるも少数

インフルエンザA ピークはすぎたか？

【小牧市 小牧市民病院】

* ロタウイルス：冬季、乳児に好発するウイルス性胃腸炎の原因となる。
主な症状は、嘔吐、下痢(白色便)で、集団発生し、発熱を伴うこともある。脱水状態にならないように注意が必要

インフルエンザは減少

ロタウイルスが増加しました。

【小牧市 志水こどもクリニック】

3歳女、インフルエンザワクチン接種したのに、A型にかかり、けいれんをおこす。

B型(インフルエンザ)2月4日からみられました。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

インフルエンザA 6名 インフルエンザB 1名(6歳男)

【半田市 医療法人林医院】

インフルエンザ26名(B型1名 4歳男)

インフルエンザのピークはすぎたようです。

【南知多町 医療法人大岩医院】

インフルエンザは減ってきました。A型B型の混合感染2人いました。

ロタウイルス陽性の腸炎2人

【東海市 小児科ハヤカワ医院】

西三河地区

インフルエンザ B 型 5 名 (4 歳、6 歳、21 歳、30 歳、62 歳)

【豊田市 保見診療所】

病原性大腸菌 O1 2 歳女 2 名、O6 1 歳男

ロタウイルス抗原 (+) 1 歳女

キャンピロバクター腸炎 8 歳女

サルモネラ 1 歳女

インフル A B クイック (A) A 型インフルエンザ

9 ヶ月女、1 歳女 3 名、2 歳男 2 名、3 歳男 2 名、3 歳女 2 名、

5 歳女 2 名、7 歳女、29 歳女、32 歳女 2 名、33 歳女

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

マイコプラズマ肺炎 10 ヶ月男 (父から感染)

EB ウイルス感染 12 歳女、14 歳女 (姉妹) (伝染性単核球症)

ロタウイルス (+) 2 名

インフルエンザ減少

【豊田市 医療法人やふそ小児科】

インフルエンザ A 男 8 名、女 7 名

インフルエンザ B 女 1 名

【豊田市 岩瀬小児科】

1 歳女 病原性大腸菌 O1

1 歳男 病原性大腸菌 O6

4 歳女 病原性大腸菌 O111

2 歳男 ロタウイルス

【岡崎市 医療法人深田小児科】

4 歳男 マイコプラズマ肺炎

4 歳男 病原性大腸菌 O44 VT1 (-) VT2 (-)

流行性角結膜炎と思われる子多し

【岡崎市 花田こどもクリニック】

インフルエンザ B 型 10 名

3 歳女 病原性大腸菌 O1 VT (-)

4 歳女、5 歳女 病原性大腸菌 O6 VT (-)

1 歳女 病原性大腸菌 O25 VT (-)

1 歳男、6 歳女 病原性大腸菌 O18 VT (-)

【岡崎市 にいのみ小児科】

8 歳男 病原性大腸菌 O18

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

インフルエンザ計 41 名 (A 型 36 名、B 型 5 名)

A 型は当地で減少傾向

【岡崎市 栗屋医院】

インフルエンザ A 型 14 名 (1 名家族内発症、2 名ワクチン接種済)

13 名インフル A B クイック A (+)、1 名臨床診断のみ

【岡崎市 永坂内科医院】

インフルエンザ A 型 36 名、B 型 0 名

【岡崎市 村山医院】

インフルエンザ減少傾向
ロタウイルス感染症目立ちます。

【碧南市 永井小児クリニック】

インフルエンザすべて A
感染性胃腸炎が増加

【西尾市 やすい小児科】

インフルエンザ B 型 6 人

1 歳男、3 歳男、5 歳男、27 歳男、1 歳女、35 歳女

【西尾市 山岸クリニック】

8 歳女 カンピロバクター
インフルエンザは急速に減少しました。

【幸田町 とみた小児科】

インフルエンザは、横ばい状態です。
溶連菌感染症が増えてきました。

【三好町 三好町民病院】

東三河地区

インフルエンザ流行中です。

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

A 型インフルエンザの患者さんは、峠を越えたようです。
かわりに水痘が増えています。

【豊橋市 あずまだこどもクリニック】

2 歳男 インフルエンザ (A) R S ウイルス感染合併
インフルエンザ B 型 2 名

【蒲郡市 蒲郡市民病院】

3 歳男 ワクチン未接種

1 月 18 日 キャピリア^{*1}A (+) シンメトレル^{*2}4 日

2 月 3 日 再びキャピリア A (+)

【蒲郡市 医療法人鈴木小児科医院】

*1 キャピリア：インフルエンザ迅速診断キット

*2 シンメトレル：インフルエンザ治療薬

< 第 5 週コメント追加 >

ロタ 2 歳男、1 歳女、B 群 2 名

【蒲郡市 蒲郡市民病院】

1～3類感染症の発生状況（愛知県）

腸管出血性大腸菌感染症

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	瀬戸	1	男	1/16	1/17	2/5	O 111 VT1(+) VT2(+)	感染経路不明

全数把握の4類感染症の発生状況（愛知県）

発生報告なし

第4週(15年1月20日～1月26日)の4類感染症（全国）

定点当たり報告数が過去5年間の同時期と比べて特別多い疾患はなかったが、インフルエンザの定点当たり報告数は増加を続け、38.5となった。すべての都道府県で定点当たり報告数は2桁となり、沖縄県（83.5）を始めとして10都道府県で50を超えている。しかし、流行の開始が早かった福岡県（40.0から30.9）、佐賀県（51.1から38.2）、大分県（54.3から49.1）などでは、第3週に比べて減少した。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はわずかに増加し、都道府県別では引き続き富山県（2.8）と山形県（2.6）からの報告が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2割増加し、宮城県（17.1）と宮崎県（15.2）をはじめ、13都道府県から10.0以上の報告があった。水痘の定点当たり報告数は大きな変化はないが、沖縄県（5.0）からの報告が多い。成人麻疹の定点当たり報告数は倍増して0.03となり、都道府県別では宮城県（0.3）からの報告が多い。マイコプラズマ肺炎（0.17）の定点当たり報告数は増加し、青森県（1.0）、岡山県（1.0）、秋田県（0.9）からの報告が多い。

（Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋）

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供）

詳細は感染症情報センター - のホームページ（<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>）の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

